

【 看護の統合と実践 】

授業科目	看護管理		対象学年・時期	3年次・前期
			単位数	1
			時間数	15
講師名	看護師		講義時間	14
			テスト時間	1(45分)
学習目標	1. 看護の質を保証するためのマネジメントの基礎について理解する 2. 看護管理の目的と機能について理解する 3. 組織の一員としての看護師の役割や行動を理解する			
回数	主題	学習内容及び方法		講義形態
1回	1. 看護管理とは	1)管理の概念 2)看護師の仕事とその管理		講義
2回	2. 看護ケアのマネジメント	1)看護ケアのマネジメントと看護職の機能 2)安全管理 (1)安全管理のしくみ (2)医療安全対策 3)チーム医療 (1)看護職の責任と役割 (2)他職種との連携・協働 4)看護業務の実践		講義
3回 4回	3. 看護サービスのマネジメント	1)組織目的達成のマネジメント 2)看護サービス提供のしくみづくり 3)人材のマネジメント 4)施設環境・物品のマネジメント 5)情報のマネジメント 6)組織におけるリスクマネジメント 7)サービス評価		講義
5回	4. 看護職のキャリアマネジメント	1)看護職のキャリア形成		
6回	5. 看護を取り巻く諸制度	1)保健医療福祉政策と最近の傾向 2)政策・制度と看護サービス		講義
7回	6. マネジメントに必要な知識と技術	1)組織経営と倫理 2)労働管理		講義
8回	終講試験			
評価方法	筆記試験			
テキスト	系統看護学講座 統合 看護管理 看護の統合と実践① (医学書院)			
参考文献				

【看護管理】

自己学習時間	30時間	事前・事後学習	課題レポート、テキストで事前学習、事後学習をすること
--------	------	---------	----------------------------

授業科目	医療安全		対象学年・時期	3年次・前期
			単位数	1
			時間数	30
講師名	看護師		講義時間	23
			テスト時間	1(45分)
学習目標	1. 医療における安全管理の必要性を理解する 2. 安全管理の方法を理解する 3. 感染予防対策および標準予防策を理解する			
回数	主題	学習内容及び方法		講義形態及び教室
1回	1. 安全管理とは	1) 医療安全の定義 2) 医療安全の管理 ①システム②プロセス③リスクマネジメント		*アクティブラーニング 講義
2回 3回	2. 事故予防対策	1) 間違い防止 2) 危険の予測・評価 3) 被害拡大の防止		講義・演習
4回 5回 6回	3. 診療の補助業務に伴う事故防止 (患者に投与する業務における事故)	1) 業務特性からみた患者に投与する業務の事故 2) 注射業務と事故防止 3) 注射業務に用いる機器 4) 輸血業務と事故防止 5) 内服と薬業務と事故防止 6) 経管栄養業務と事故防止		講義・演習
	4. 診療の補助業務に伴う事故防止	1) チューブの管理		講義
7回	5. 療養上の世話における事故防止	1) 療養上の世話における2群の事故のとらえ方 2) 転倒・転落事故防止 3) 誤嚥事故防止 4) 異食事故防止 5) 入浴中の事故		講義
8回	6. 防災対策	1) 災害時初動体制 2) 災害対応マニュアル		講義
9回	7. 医療事故安全対策の展望	1) 組織としての安全対策 2) 国内外における安全対策と国際的連携		講義
10回	8. 事例に基づき事故の原因…誘因の分析	1) 事例－チームステップス		演習
11回	9. 分析の共有化	1) 演習の発表		演習
12回	まとめ/終講試験			
評価方法	筆記試験			
テキスト	系統看護学講座 統合 医療安全 看護の統合と実践②(医学書院)			
参考文献				

授業科目	医療安全		対象学年・時期	3年次・前期
			単位数	1
			時間数	30
講師名	看護師		講義時間	6
			テスト時間	試験別
学習目標	1. 医療における安全管理の必要性を理解する 2. 安全管理の方法を理解する 3. 感染予防対策および標準予防策を理解する			
回数	主題	学習内容及び方法		講義形態及び教室
1回	1. 感染防止の技術	1) 感染防止の基礎知識 2) 標準予防策 (1) CDCガイドライン (2) スタンダードプリコーション 3) 感染経路別予防策		講義
2回 3回	2. 感染予防の技術の実際	1) 針刺し事故防止 2) 中心静脈カテーテル等の関連感染対策		講義
評価方法	筆記試験			
テキスト	系統看護学講座 統合 医療安全 看護の統合と実践②(医学書院)			
参考文献				

【医療安全】

自己学習時間	15時間	事前・事後学習	テキストで事前学習、事後学習をすること
--------	------	---------	---------------------

授業科目	国際・災害看護(国際看護)		対象学年・時期	3年次・後期
			単位数	1
			時間数	30
講師名	非常勤講師 看護師		講義時間	10
			テスト時間	試験別
学習目標	1. 国際看護における看護の役割を理解する 2. 看護職としての諸外国との協力のあり方を理解する 3. 国際社会における医療福祉の現状を理解する 4. 我が国における災害対策と災害救助活動を通して、国際協力の必要性を理解する			
回数	主題	学習内容及び方法		講義形態
1回	1. 看護における国際化	1. 看護の対象者の国際化 2. 求められる看護者の能力 ・看護職者に求められるグローバルな視点		講義
2回	2. 国際看護とは	1. 世界の健康問題の現状 ・人口 感染症 地球温暖化 2. 国際看護の概念・目的 ・国際看護学の定義 ・国際看護学に関連する基礎知識 3. グローバルヘルス ・インターナショナルヘルスから グローバルヘルスへ ・ミレニアム開発目標 (MDGs) ・持続可能な開発目標 (SDGs)		講義 グループワーク
3回	3. 国際看護の対象	1. 国際看護の枠組み ・国際協力のしくみ 2. 在日外国人への看護活動		講義
4回	4. 国際看護活動の現状	1. 国際機関と保健医療福祉の関わり 2. 国際看護活動の実際 3. 国際看護活動の課題		講義
	5. 国際救護と看護	1. 世界における災害と難民・国内避難民の現状 2. 国際救護の活動の基本理念 3. 特徴的な災害・紛争救護活動の概要 4. 国際援護における看護の展開		
5回	6. 異文化を考慮した看護	1. 事例における看護の展開 ・文化を考慮した看護の展開 ・国際救護における看護の展開		講義 グループワーク
評価方法	筆記試験			
テキスト	系統看護学講座 災害看護学・国際看護学 看護の統合と実践③ 医学書院			
参考文献				

授業科目	国際・災害看護(災害看護)	対象学年・時期	3年次・後期
		単位数	1
		時間数	30
講師名	看護師	講義時間	19
		テスト時間	1(45分)
学習目標	1. 災害の定義および災害医療の概要を理解する 2. 災害サイクルにおける保健医療ニーズや活動の場に応じた看護を理解する		
回数	主題	学習内容及び方法	講義形態
1回	1. 災害の基礎知識	1. 災害の定義 2) 災害の種類と健康障害 2. 災害医療の特徴 4) 災害情報 3. 職種間・組織間連携 6) 災害看護と法律	講義
2回	2. 災害看護の基礎知識	1. 災害看護の定義 2. 災害看護の基礎知識 3. 災害看護の対象者災害看護の特徴と看護活動	講義
3回 4回	3. 災害各期の看護	1. 急性期・亜急性期の看護 1) 初動体制について 2) トリアージ 2. 慢性期・復興期・静穏期 3. 災害が健康や生活に与える影響	講義
5回 6回 7回 8回	4. 災害看護の実際	1. 災害時に必要な技術 1) トリアージ 2) 搬送 3) 応急処置 2. 我が国の災害対策の実際	演習
9回	5. 被災者特性に応じた災害看護	1. 子ども・妊産婦・高齢者・障害者・慢性疾患患者・在日外国人に対する災害看護 2. 災害とこころのケア 3. 災害看護の特徴と看護活動	講義
10回	まとめ/終講試験		
評価方法	筆記試験		
テキスト	系統看護学講座 災害看護学・国際看護学 看護の統合と実践③ 医学書院		
参考文献			

【国際・災害看護】

自己学習時間	15時間	事前・事後学習	テキストで事前学習、事後学習を行う 世界情勢に関心を持って講義に臨む
--------	------	---------	---------------------------------------

★この科目は実務経験のある教員による授業科目です

独立行政法人国立病院機構高崎総合医療センター附属高崎看護学校

授業科目	臨床看護技術演習		対象学年・時期	3年次・後期
			単位数	1
			時間数	30
講師名	看護師 ★		担当時間数	30
			テスト時間	課題評価
学習目標	1. 複合的な条件の事例を予測性・個別性をもってアセスメントし、実践できる能力を習得する 2. 卒業時の技術到達度をふまえて、自己の看護技術の達成状況と課題を明確にする			
回数	主題	学習内容及び方法	講義形態及び教室	
1回	1. 複数患者の看護	1) 複数患者を受け持つための情報収集・管理 2) 1日のスケジュールの立て方と業務時間の管理 (援助の優先順位の決定とタイムマネジメント)	講義	
2回 3回 4回 5回	2. 複合事例の症状のアセスメント	1) 臨床推論の展開 2) 優先度の決定	演習	
6回 7回 8回	3. アセスメントに基づく看護の実施・評価	1) 多重課題の危険性 2) 多重課題発生時の対処の原則 3) 複合した治療処置の必要な患者への援助	講義 演習	
9回 10回	4. 看護チームの一員としてのメンバーシップ行動	1) 指示と報告の基本 2) チームワークとリーダーシップ 3) 看護チームでの情報伝達・共有	講義 演習	
11～15回	5. 自己の看護技術の達成状況と課題	1) 卒業時の技術到達度をふまえて、技術演習を行い、自己の課題の明確化	演習	
評価方法	レポートおよび課題			
テキスト	系統看護学講座 統合 看護管理 看護の統合と実践①(医学書院) 系統看護学講座 専門 I 看護学概論 基礎看護学①(医学書院)			
参考文献	系統看護学講座 専門 I 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③(医学書院) 根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術(医学書院) 看護の統合と実践①看護実践マネジメント/医療安全 メヂカルフレンド社			

【臨床看護技術演習】

自己学習時間	15時間	事前・事後学習	演習の準備、技術練習を行う
--------	------	---------	---------------

授業科目	統合実習	対象学年・時期	3年次・後期
		単位数	2
		時間数	90
実習目的	領域別看護の実習をふまえ、保健医療チームの一員として看護を総合的、継続的に実践できる能力を習得する		
	実習目標及び内容		
	<p>1) 看護チームの一員として、対象の状況や個別性をふまえた適切な方法で看護を提供するための方法を理解する</p> <p>(1) 個々の患者の健康問題を把握し優先順位を決定できる</p> <p>(2) 患者個々の状態に応じた援助計画の立案ができる</p> <p>(3) 複数受け持ち時の1日の行動計画を立案できる</p> <p>(4) 限られた時間の中で複数患者に必要な援助が実施できるように時間管理ができる</p> <p>(5) 対象に応じた看護技術を実施する</p> <p>(6) 適切な時期に報告・連絡・相談できる</p> <p>2) 看護チームにおけるリーダーシップ・メンバーシップの重要性と看護の継続性について理解する</p> <p>(1) 継続した看護を行うための連携の必要性について述べられる</p> <p>(2) 夜間の患者の療養生活に必要な看護師の役割について述べられる</p> <p>(3) 夜間帯の安全管理について述べられる</p> <p>(4) 病棟の看護体制と運営方法について述べられる</p> <p>(5) 看護師の労働環境を整える体制について述べられる</p> <p>(6) 医療事故防止のための体制について述べられる</p> <p>(7) 防災対策について述べられる</p> <p>(8) 看護チーム内のリーダーの役割について述べられる</p> <p>(9) 看護チーム内のメンバーの役割について述べられる</p> <p>3) 自己の看護に対する考えを探求する</p> <p>(1) 専門職業人としての自己の課題を明確にすることができる</p> <p>(2) 自分の役割を自覚し、責任のある行動ができる</p> <p>(3) よりよい看護を実践するために、主体的に学習する姿勢がある</p> <p>(4) チームの一員として適切な人間関係をもつことができる</p>		
評価方法	評価表による評価		